

# 学部・研究科等の現況調査表

## 教 育

平成22年6月

信州大学

## 目 次

15. 総合工学系研究科	15- 1
16. 法曹法務研究科	16- 1

## 15. 総合工学系研究科

Ⅱ	分析項目ごとの水準の判断	・・・	15-2
	分析項目Ⅴ	進路・就職の状況	・・・15-2

## II 分析項目ごとの水準の判断

## 分析項目V 進路・就職の状況

## (1) 観点ごとの分析

## 観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

平成19年度から平成21年度において修了した106名の全専攻の修了生から、横断的に20名を無作為抽出し、修了生本人及び同人の就職先の上司等にアンケートを実施した。

修了生に行ったアンケート結果のうち、本研究科の教育内容及び教育研究の効果に関するものは資料一総工院一1のとおりである。特に、「大学院で受けた教育内容に満足していますか?」、「大学院で学んだこと経験したことが役に立っていると感じますか?」との質問に、80%がそれぞれ「満足している」または「役に立っている」旨の回答であった。また、自由記述からは「“信大の博士課程を出るとやはり違う。”と言われる」、「専攻とは直接の関係のない官公庁の技術職を選んだが、現在の職務において組織内の物理学に対する基礎知識の強化や専門知識を活かした新技術の開発に期待すると言われており、大学で学んだ事は今後とも役立つものと感じています。」などの回答も得られ、本研究科の修了生から高い評価を得られていることが窺える。

修了生の就職先の上司等に行ったアンケート結果のうち、修了生が本研究科において身につけた資質、能力に関するものは資料一総工院一2のとおりである。特に「仕事に対する責任感」についてはほぼ100%の関係者から肯定的な回答が得られ、加えて、「専門知識と研究開発能力」、「論理性」について高い評価を得た。また、各項目に対する否定的な回答は見られなかった。さらに、自由記述からも資料一総工院一3のように学習の成果を積極的に評価する回答が得られた。このことから、就職先関係者から本研究科修了生に対して良い評価を得ていることが窺える。

(資料一総工院一1) 総合工学系研究科修了生アンケート集計結果(修了生本人)(回答者20名)

項目	全くない	あまりない	どちらでもない	ある	とてもある	無回答
■ 職場で自分の能力を発揮できていると感じますか?	0	1	4	7	8	0
■ 職場で周囲からよい評価を受けていると感じますか?	0	1	6	9	4	0
■ 大学院で学んだこと経験したことが役に立っていると感じますか?	0	1	3	10	6	0
■ 大学院で受けた教育内容に満足していますか?	0	2	2	12	4	0

(出典：総合工学系研究科)

(資料一総工院一2) 総合工学系研究科修了生アンケート集計結果(就職先関係者)(回答者16名)

項目	全くない	あまりない	どちらでもない	ある	とてもある	無回答
■ 一般知識・基礎学力	0	0	4	7	5	0
■ 専門知識と研究開発能力	0	0	4	7	5	0
■ コミュニケーション能力	0	0	5	5	6	0
■ 文章力、プレゼンテーション能力	0	0	4	6	6	0
■ 情報技術に関する知識と活用能力	0	0	8	3	5	0
■ 仕事に対する責任感	0	0	1	6	9	0
■ 論理性	0	0	3	9	4	0
■ 対人関係、協調性	0	0	4	5	7	0
■ 礼儀正しさ、誠実さ	0	0	4	5	7	0
■ 指導力	0	0	8	4	4	0

(出典：総合工学系研究科)

(資料－総工院－3) 総合工学系研究科修了生の就職先関係者の声 (アンケート結果から)

- ・複数の修了生を採用していますが、信州大学の学生は基本的に真面目で、仕事に対する取組みに集中できると感じます。
- ・礼儀正しく誠実で、協調性もあって職場関係も良好です。仕事に関する意欲もあって将来を期待しています。今後も順調に飛躍していくことを期待しています。
- ・他の手本となるような、立派な学生であると私自身認識しております。礼儀正しく、謙虚である。また、同期を先導し勉強会を開くなど、私自身の経験から、ここまで優秀な学生を受け持ったことはありません。
- ・仕事に対して非常に粘り強く、最後まで何とかしてやり遂げようとする強い意志を持っていると考えています。また、これは指導教官のおかげであると思いますが、かなりの専門知識を有しており、即戦力として頑張らせていただいています。
- ・信州大学との協調は我々にとっても非常に重要であり、その繋がりを維持していくためにも、優秀な信州大学生を通じた連携を大切にしていきたいと思っております。

(出典：総合工学系研究科)

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

平成 19 年度に最初の修了生を輩出し、全員が、研究職、専門技術職、教育職に就いており、平成 20 年度以降においても同様の傾向を示している。

修了生本人、修了生の就職先の上司等に対して行ったアンケート調査では、各項目において高い評価を得ており、本研究科の実施してきた教育の成果が十分に発揮され、社会からの期待にも充分応えているといえる。

## 16. 法曹法務研究科

II	分析項目ごとの水準の判断	・ ・ ・ ・ ・	16- 2
	分析項目 V	進路・就職の状況	・ ・ ・ 16- 2

## Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断

### 分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

#### (1) 観点ごとの分析

##### 観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

法曹法務研究科では、平成20年3月に29名、平成21年3月に28名が修了し、平成21年度新司法試験において4名の合格者を出した(資料-法科-1)。

資料-法科-1：修了後の進路の状況

	修了者数	新司法試験 合格者数	就職	
			民間	官公庁
平成19年度修了	29	1	2	1
平成20年度修了	28	3	2	1

(出典：法曹法務研究科)

##### 観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

法曹法務研究科では、平成20年3月に29名、平成21年3月に28名の修了生を輩出し、平成21年度新司法試験において4名の合格者を出した。平成21年度新司法試験の未修者コース出身者に限った合格率の順位は、全国の法科大学院74校中、35位(出典：法務省公表「平成21年新司法試験法科大学院別人員調(既修・未修別)」)である(本法科大学院は、未修者コースのみ設けている)。

また、全体比では少数であるが、新司法試験受験以外の進路を選択した修了生についても、公務員をはじめ、その他一般企業に進む等、本研究科で養われた法律的素養を活かして職業に就いている(資料-法科-1)。

上記の状況に鑑みれば、本研究科が関係者として想定している、在校生及び修了生、並びに長野県弁護士会を中心とする法曹実務家(法曹三者)の期待に応えるものとなっている。

#### (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

法曹法務研究科が目指す、多様な問題に対処しうる高い実務能力を備えた法曹となるに相応しい人材を社会に送り出すという1つの到達点を示すことができた。さらに、新司法試験に4名が合格した等の実績に鑑みれば、法曹法務研究科の教育目的に沿った教育活動が実施されているものと判断できる。